



健やかな子へ「非認知能力」を育てる…浜野 隆氏講演会より

11月6日に行方市幼児教育合同研修会が行方市文化会館で市幼稚園・こども園・保育園の職員等が集まり実施されました。講師はお茶の水大学教授 浜野隆先生で、演題は「非認知能力を育てる」でした。「非認知能力」は右資料のように話されました。

非認知能力は…

- ① 目的達成力(粘り強さ・忍耐力、やればできる感、意欲)
- ② 他者と協働する力(相互に対話して他者と協力できる社会性、思いやり、共感、信頼、協調性)
- ③ 感情コントロール力(失敗しても大丈夫次は成功すると気持ちをコントロールする力、楽観性、自信)

日本の子供・若者の「非認知能力」の状況は

日本の教育での課題として右の4つを挙げられました。学校での課題と似ている点が多く、本校では児童一人一人に出番や役割を与え、成功体験を通して自己有用感や自信を味わわせられよう、授業、学級活動、学校行事に取り組んでいます。「非認知能力」は、幼児期はもちろんですが、小中学校時代、大人になってからも伸びるといわれています。

- ① 学力は高いが意欲は低く、学ぶ楽しさを感じていない。
- ② 自尊感情・自己肯定感が低く、自信力に欠ける。
- ③ 将来に希望を持たず、やりたいことや目標が乏しい。
- ④ 人としてのたくましさ・生命力、精神状態の問題。

家庭における「非認知能力」の育て方

非認知能力は「様々な場(家庭・学校・地域・学校外活動)で育つ」「ゆっくり育つ(効果の現れ方がゆるやか)」「教え込むというよりは、日常の経験で育つ面も多い。」家庭の経済力の高低に関わらず、子供の非認知能力を高めることは可能であり、子供の時期には安定した人間関係の中で、子供が活動に集中できる環境を整え、自分から取り組むとする力を高めることが効果的である、と話されていました。

- ① ルールを作り、基本的な生活習慣を整える。
- ② 共有型な子育て(支援的子育て、民主的な子育て)をする。
- ③ 自己肯定感を高める働きかけをする:子供の良いところを見つけてほめる等。

新シリーズ⑩「ぼく・わたしのクラス紹介」 2年2組 ○○学級

2年2組は、学級目標を「みんなにやさしい2年2組」に掲げ、だれもが優しい気持ちを持ち、明るく元気に助け合って過ごしています。

クラスには自慢できることがたくさんあります。一つ目は、10月の運動会のダンスが上手に踊れたことです。家族や上級生や先生たちにも「上手だった」と褒めてもらいました。1年生のお手本になれるように頑張りました。二つ目は、給食の配膳や片付けが静かに早くできることです。給食当番は、自分の仕事はもちろん戸惑っているところの仕事の手伝いにいきます。今は、黙って食べていますが、早くみんなとお話をしながら食べたいと思います。三つ目は、掃除が静かに早くできることです。マスクはしていますが、しゃべるとほこりが入るし、手が止まってしまうからおしゃべりをしないように心がけています。四つ目は、静かに話が聞けることです。話をしている人の方を見て、聞くようにしています。聞く姿勢が出来ると話が始まらないのでお互いに小さな声でそっと教え合っています。

担任の○○先生は、いつも元気いっぱいです。そして怒るとめっちゃめっちゃ怖いです。話を聞かない時、ルールを守らない時、嘘をついた時に

は叱られます。○○先生からは、「お手伝いをしよう」「秋を探そう」「月食を見よう」などの楽しい宿題があります。月例テストの勉強を頑張ると「宿題がなし」の時もあって、実は面白い先生なのです。

勉強では、かけ算九九を覚えることを頑張っています。かけざん百マスや九九ピンゴ、カードゲームをしながら楽しく覚えています。1年生を招待して行く「おもちゃまつり」も楽しみです。1年生に上手に説明ができるか今からドキドキです。3年生になったら、「あんな上級生になろうね」と下級生に目標にしてもらえるように生活も学習も頑張ろうと思っています。

(2年2組 児童一同)



